

Contents

JAPAN TOILET ASSOCIATION



- | | | | |
|---------|---|---------|----------------------------|
| 1 - 3 | 連載2 日本トイレ協会40周年にあたり
「温故知新」～これまでの協会と今後～ | 13 - 14 | 研究会報告2 |
| 4 | リレートーク | 15 | セミナー調査分析グループ |
| 5 - 6 | 会員活動の紹介 | 16 - 18 | 2023年度より「JTAトイレ賞」と名称を改めました |
| 7 - 9 | 会員からのレポート | 19 - 20 | 第39回 全国トイレシンポジウムを開催 |
| 10 | 私の推薦トイレ | 21 - 22 | 事務局からのお知らせ |
| 11 - 12 | 研究会報告1 | | |

山本耕平 運営委員 / (株)ダイナックス都市環境研究所代表取締役会長

「温故知新」～これまでの協会と今後～

トイレに名前？

1984年と86年に当時の市と特別区を対象に公衆トイレの実態調査を行った。公衆トイレについては、全国的な統計も設置基準も存在しなかったからである。どちらも4割くらいの回答率で、公衆トイレの数は1回目調査では人口4000人にひとつ、2回目の調査では4400人にひとつという結果が得られた。(ちなみに2019年にトイレ協会として行った調査(市区町村1741団体、回答率21%)では、1876人にひとつという結果だった。)人口あたりの指標はあまり適切ではないように思うが、トイレのある場所は公園が7割近く、観光拠点や道路沿い、駅前などにも設置されていることがわかった。

トイレ調査の反響はけっこうあって、自治体からの問い合わせや新聞記事に掲載されたこともあった。あるとき「おめっち、トイレやるんなら、うちっち見に来い」という静岡弁で電話がかかってきた。「写真送るから」というので見てみると、なんと和風の建物の前に赤い毛氈を敷いた床几がおいてあり、トイレの入り口には名前の看板が掲げられている！電話をくれたのは伊東市産業課の鈴木弘征さん。79年に「手水庵(ちょうずあん)」と「磯の香和屋(いそのかわや)」、80年には「潮騒の手水処(しおさいのちょうずどころ)」と名付けたトイレを建設しており、その後も毎年ユニークな公衆トイレの整備を行っていた。トイレの入り口に掲げられた墨痕鮮やかな看板は、地元の書家の手によるものだという。こんなまちがあるとは大発見だ！公衆トイレの改革は伊東市が嚆矢(こうし)だ！

1986年日本で初めてトイレシンポジウムを開催

地域交流センターの内部で、ぜひ伊東でトイレのシンポジウムをやろうという話になった。5月にトイレ協会を設立したばかりで、その翌年の1月に全国シンポジウムをやろうというわけだから、事務局としては大変である。

「第一回全国トイレシンポジウム」のテーマは「社会とトイレを考える」とした。シンポジウム会場は伊東市が提供してくれることになったが、そもそもどれくらいの人に参加してくれるか見当もつかない。結果的には地元の観光関係者を含めると300人近い規模となり、その半分くらいは全国の自治体などからの参加者だった。

当時のプログラムや資料集は手元に残っていないので、記憶にたよって書くが、西岡先生の講演、伊東市やいくつかの自治体からの報告、分科会、パネルディスカッションという構成だったと思う。汚水の土壌浄化法を開発した在野の農学者新見正氏のレジメが残っているので、尿尿処理も含めて幅広い観点からのシンポジウムだったと思う。

パネルディスカッションに登壇していただいたのは、写真左端の司会の田中栄治(日本トイレ協会代表幹事)から、パネリストとして桜井敏郎(神奈川県衛生研究所)、村田徳治(循環資源研究所)、小澤紀美子(東京学芸大学助教授)、芹沢昭三(伊東市長)、西岡秀雄(日本トイレ協会会長)、高橋志保彦(建築家、都市デザイナー)、鴨下一郎(日比谷国際クリニック院長)、坂本菜子(コンフォートスタイリスト)、岡田信司(TOTO 機器参与)、桂真人(INAX 開発事業部)、小滝一正(横浜国立大学工学部建築学科講師)、の諸氏である(敬称略、肩書きは登壇名札のとおり)。

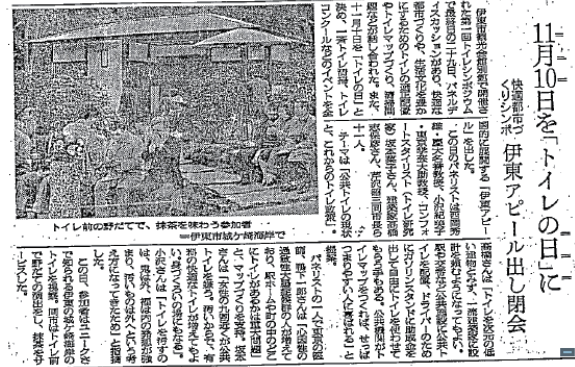
伊東市のトイレは城ヶ崎海岸沿いにあり、休憩スペースとして意識してつくられている。エクスカージョンではそれらのトイレを巡り、トイレの前で地元の皆さんが点ててくれたお茶をいただいた。さすがのホスピタリティに感激したことを覚えている。夜の交流会では、西岡先生のリードで「アロハオエ」を輪になって歌った。これがその後のトイレシンポジウムの伝統になっている。



記念すべき第一回全国トイレシンポジウムのパネリスト



エクスカーションの集合写真（割烹着や着物姿の女性があり、まちをあげてもてなしてくれた様子が見える）



当日はテレビニュースのほか、大手紙、地方紙などさまざまなメディアで取り上げられた。

「トイレの日」記念シンポジウム（第2回全国シンポ、江戸川区）

伊東のシンポジウムのなかで「トイレの日」をつくる提案をした。事務局でいろいろ考えて、語呂では10月10日がよさそうだがTOTOさんの日になってしまうので、いいトイレの語呂で11月10日とした。

トイレの日をつくったからには何かせねばならない、という話になって、またまた「トイレの日記念シンポジウム」をやることになった。場所は江戸川区になった。ちょうど86年に都営新宿線が船堀から篠崎まで開通するため、公衆トイレの整備に力を入れていた。シンポジウム開催について打診すると前向きな返事もらったので説明に行くと、いきなり庁議に出席して区長に話をするようになった。庁議というのは区長、特別職、すべての部長らによる役所の意思決定会議だ。当時の中里区長はトイレシンポジウムの開催を庁議の議題にしてくれたのである。そこで開催が決まると、区長は「各部は全面的にこの一大イベントに協力するように」という指示を出し、事務局としてはあっけにとられるほどのスピードで走り出したのである。

テーマは「トイレアメニティをめざして」。公害対策からよりよい環境を創造していくという環境政策の転換が、アメニティという言葉で語られ始めた頃である。快適環境と訳されたが、私は「景観や自然環境を含めて、人間の心理や生理にもやさしいまちづくり」と定義して、「トイレはアメニティの重要な要素である」というんな専門誌や雑誌に書きまくっていたのでつけたタイトルだ。「公共トイレのアメニティ」「住まいとトイレ」などの分科会と全体会、エクスカーション、交流会、さらに「グッドトイレ10」を公募して展示し、参加者に投票してもらった。

忘れられない思い出をひとつ。前日に会場の準備をしていると合唱コンクールが開催されていた。臨席していた区長が感激したのだろう、「明日のオープニングに合唱をやらせてもらおう」と一言。ワンマンで通っていた区長だが、さすがに今日の明日に大勢でやる合唱はできない。担当部長が必至になだめて、演奏者一人ですむピアノ演奏ということにしてもらった。ワンマン区長のおかげで、ひと味違う幕開けとなった。

エクスカーションでは区内の公衆トイレを回ってクイズをやらしてもらったり、特製のトイレトッパーをつくった。現在はずいぶん寂しくなった新小岩のベルタウン松江商店街では、レンガ造り風のトイレができていて、トイレクイズ正解者にはテレホンカードを100枚くらい景品に配った。NTTも協力して、商店街あげてのイベントになった。

第3回全国シンポジウム（横浜）

86年に2回もシンポジウムをやったが、開催を引き受けてくれた2つの自治体の協力でもとも意義のある内容になった。マスコミが真面目にトイレの問題をとりあげてくれるようになったのは、トイレシンポジウムのおかげである。

とはいうもののトイレ問題は奥が深い。きっかけはつくったものの、事務局の浅薄な知識や情報だけではこれ以上の展開は難しい。そこで第3回トイレシンポジウムにあたって、トイレ問題に関する研究や事例発表論文を公募することにした。トイレ対策で地道な努力を重ねている自治体の事例、研究者や企業からの研究論文、市民からの率直な意見を寄せてもらうことにし、シンポジウムで発表することとした。その結果、依頼したものも含め約30編の原稿が集まった。これを題材としてシンポジウムを企画した。

開催地は横浜である。われわれがトイレを始めるにあたって最初に相談に行ったのは実は横浜市環境事業局である。前稿に書いたが、私はごみ（廃棄物問題）の仕事をしており、ごみの隣にあった尿尿処理の担当課に雑談でトイレの話をしたら、公衆トイレについて新しい試みを始めているということがわかった。たとえば「さわやかトイレ」というプレハブ型トイレや、中華街と元町の間にある前田橋公衆トイレでは、子供用便器のある車イストイレ（すなわち多機能トイレ）を試験的につくったばかりだった。横浜市は私の会社（ダイナックス都市環境研究所）に「公衆トイレ標準化調査」を発注してくれて、横浜駅西口、鶴見駅、前田橋の3カ所のトイレの利用実態調査（24時間利用者をカウントする）を行い、課題と対策をとりまとめた。そんな縁があって、3回目は横浜市に開催を受け入れてもらった。

「第3回トイレシンポジウム、トイレ論文・作文集」には当時のトイレを取り巻く問題状況や国のトイレに関する政策、JRをはじめとする民間セクター・企業の取り組み、テーマとしては「身障者トイレからハンディキャップトイレに」（日本身障運転者協会の小山さん）、「トイレからのまちづくり」（鳥取県倉吉市長）、「水質・浄化槽問題」（厚生省環境整備課長）、水洗トイレの節水、大学のトイレ問題、農村のトイレ、学校教育など、幅広い分野の玉稿が掲載されている。多様な問題提起を受けてシンポジウムのテーマは「トイレからのまちづくり、都市・住宅トイレのハードとソフト」とした。つまりなんでも話題にできるというわけである。



横浜市のさわやかトイレ



横浜での開催の思い出を二つ。会場は関内の開港記念会館という古い、荘厳な建物である。演台は狭い上にかなり高い位置にある。車イスの演者に登壇してもらうためには担ぎ上げないといけないが、電動車イスのために重くて万一のことがあると危険だ。そこで横浜市は現業の職員にスロープをこしらえてもらったのである。半端なく大きいスロープで、舞台の端から端までである。昔は汲み取り作業は「桶」を使っていたので、その補修などのために木工の職人がいた。当時にそんな職人がいたとは思えないが、もしかしたら何か技術が伝統が伝わっていたのかもしれない。立派なスロープを見て現場の心意気を感じた次第である。

もう一つは「グッドトイレ10」について、報道各社が結果を聞きたがったことだ。特に共同通信は地方紙に配信しているので、朝刊に間に合うように結果を知らせしてほしいといわれた。グッドトイレ10に選ばれた自治体が地方紙で大きく取り上げられ、それがトイレ改革の広がりにつながった。やっていることが社会に影響を及ぼしているという手応えを、しっかりと感じたシンポジウムだった。

（次回は、第4回倉吉でのシンポジウムや国際会議の話）

佐野 涼介 法人会員B/スターライト工業株式会社 セーフティ・ライフサポートカンパニー
事業企画セクション

災害時のトイレ問題について考えよう

スターライト工業（株）は災害用トイレの製造・販売を行っている企業です。弊社は阪神淡路大震災の際にトイレが問題になったことをきっかけに、被災者の声を形に変えて災害用トイレを開発し、それ以来25年以上、災害時のトイレ問題と向き合い続けております。

現在では商品の提供だけでなく、災害の恐ろしさや防災の必要性などに関心を持ってもらうため、防災訓練や防災イベントへ積極的に参加し、啓発活動にも力を入れております。特に弊社の事業所がある滋賀県栗東市では栗東市様と協力し、地域の防災訓練へ参加、災害が起きるとトイレはどうなってしまうのか、災害用トイレの種類や使い方などのレクチャーを行わせていただき、少しでも住民の方々に関心を持ってもらうことで防災意識の向上へ繋がるように努めております。また、住民の方と直接お話できるため、災害用トイレに対するご意見、ご要望をいただける貴重な機会にもなり、製品開発や改良の励みになっております。

私たちはメーカーとして、災害時の安心・安全なトイレ環境を提供することを使命に取り組んでおりますが、災害が起きた時にはそこにいるみなさまの力が重要になります。私自身もこういった仕事に携わる前は災害が起きた時のトイレのことは考えもせず、誰かがどうにかしてくれるだろうと思っておりました。しかし、実際はトイレが足りない、トイレを我慢して二次的な健康被害を引き起こすなどの問題が発生する可能性があります。そのため、災害が起こる前に「一人ひとりに何ができるのか？」を考えてもらえるようにこれからも災害用トイレの重要性を発信していきます。



内海 美由紀 個人会員 / 日本博物館教育研究所 日本大学非常勤講師

トイレに込める子育て応援メッセージ： “美術館難民”解放のための「ナッジ」としてのトイレ

1. 自己紹介：「国家認定へんな人」

トイレ協会の皆さま、こんにちは。日本博物館教育研究所で研究活動を行う傍ら、日本大学などで非常勤講師をしております、内海美由紀と申します。二つ名は、「国家認定へんな人」です。総務省主催の ICT 研究における「異能」を発掘する「異能 vation プログラム」（通称「へんな人プログラム」）において、2 回ノミネート表彰いただいたためです。最近では、美術館のトイレを研究している「へんな人」ということで、応援いただける機会が増えてまいりました。

2. なぜ美術館 × トイレなのか：「美術館難民」解放を目指して

それでは、なぜ美術館 × トイレなのか。私は博物館教育の研究者であり、美術館で子ども向けワークショップを企画した経験もありながら、子どもを産んだ途端、特に美術館に行きづらさを感じるようになりました。美術館は、老若男女どんな人でも受け入れるバリアフリー施設であるにもかかわらず、です。私はその現象を、“美術館難民”と名付け、解消を目指すことにしました。

そこでまず、自身を“美術館難民”と感じている親御さんを対象に、インタビュー調査を行いました。そして、“美術館難民”は、「バリアフリー」施設であることを理解しているが、「子育てバリアフリー」を感じていない、ことが明らかになりました(内海,2023)。先述の通り、美術館はバリアフリー施設です。「乳幼児連れお断り」といった張り紙などはありません。それでも、「乳幼児連れ」と「そうでない利用者」を隔てる空気の構造を確かに感じているようなのです。

とはいえ、問題は空気、文字通り手に取ることができません。そこで私は、この空気払拭の「ナッジ（しかけ）」(セイラー、サンスティーン,2022)として、トイレを見出しました。空気には、空気を。トイレによって、“美術館難民” ウェルカムの空気を醸成したいと考えたのです。

3. 最近の活動：理想的なトイレのあり方を学ぶ

それでは、“美術館難民”を解消に導けるような、理想的なトイレとはどのようなものなのでしょうか。最近、大きく2つの取り組みを行いました。1つ目は、研究会の開催です。トイレ協会でお世話になっている竹中晴美さん、そして積極的な子育て支援の取り組みで知られる熊本市現代美術館の岡田直幸さんを講師でお招きすることで、実際の課題を検討しました。たとえば岡田さんは、「授乳室」という言葉によって、父親が育児参加しにくくなることに着目し、同館の授乳室改修のタイミングで、「ベビールーム」に変更しました。また、下の子のケアの間、上の子が手持ち無沙汰になってしまう問題を解消するため、壁面には上の子が遊べる仕掛けを施しました。また竹中さんからは、手洗い場のフックや、二重ロックの有無等を例に、施工者にとってはほんの些細な違いに見えても、利用者の利便性が格段に変わってしまうといった事例などをご紹介いただきました。お二方の事例のご紹介は、実際にトイレの現場に関わる方ならではの視点で、極めて新鮮かつ鮮烈な印象を持ちました。

2つ目は、子ども連れの際のトイレ利用に関するアンケート調査の実施です。アンケートを通して、子ども連れに寄り添うトイレのあり方を知りたいと考えたのです。本アンケートでは、トイレ協会の皆さまをはじめ、本当に多くの方々にご協力いただくことができました。この場を借りて、お礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。本アンケートは現在分析中ですが、今後研究結果を公開することで、皆様に還元していきたいと考えています。

4. これからの展望：トイレからインクルーシブ・ミュージアムを目指して

これまで私は、色々な博物館で、鑑賞プログラムやワークシートの企画・研究をしてきました。今後はその経験を活かして、トイレ動線と組み合わせた鑑賞プログラムを作りたいと考えています（色々な実践を行いたいので、ご興味ある方はぜひお気軽にお声掛けください）。そしてそれは、子育てバリアフリーに特化したものではありません。病気や障害の有無や性別、年齢、子育て中、等の様々な属性に関わらず、どんな人もそれぞれの立場から楽しく学べる、そんなインクルーシブな鑑賞プログラムです。

その鑑賞プログラムを作っていくためには、今後もトイレ協会の皆さまのご指導ご鞭撻いただくことが不可欠と考えております。“美術館難民”解放を目指して、これからも頑張っていきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



【引用・参考文献】

リチャード・セイラー、キャス・サンスティーン（2022）『ノーベル経済学賞を受賞した賢い選択をうながす「しかけ 実践行動経済学 完全版」』日経 BP.

内海美由紀（2023）「なぜ子育て中の親は美術館利用を敬遠するのかーバリアフリーと子ども連れの距離に着目してー」『学習社会研究』5,p.

竹中 晴美 運営委員 広報渉外部 / 個人会員

トイレ診断士に学ぶ、公衆トイレのソコ・底！！

長崎初！「公衆便所及び公園便所臭気予防清掃研修会」

- 講師：株式会社アメニティ 代表取締役 山戸 伸孝（やまと のぶたか）氏
トイレ診断士1級（厚生労働省認定 社内検定）日本トイレ協会運営委員
 - 開催日：令和5年7月25日（火）26日（水）2日間
参加者 市職員、市公園便所公衆便所清掃業務委託受託業者
 - 1日目 トイレ現地調査 3箇所（2、3時間程度）
 - 2日目 トイレ診断結果報告&研修会（講義1時間程度）
13：00～14：30 結果報告&研修会
15：00～現地 実施研修 参加者 職員、清掃事業者
※推奨ブラシ、洗剤等は、（株）アメニティが準備
- 主 催 長崎市（中央総合事務所地域整備2課）
協 力 「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会（長崎市まちぶらプロジェクト認定事業）

長崎市初の取り組み「実地調査と勉強会」について

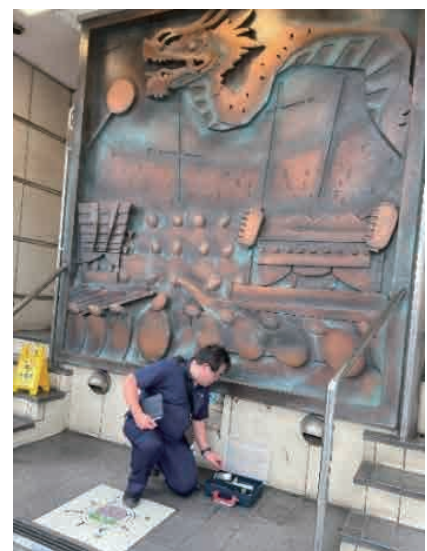
使う人の視点でトイレの使い勝手を提案するボランティア活動団体として、行政と共に取り組んで14年目、13カ所以上の公衆トイレを改修しながら、実はある課題を抱えていました。「トイレは作ってからが大事」しかし、現状は改修後、4年余り過ぎると「臭い、汚れ」などが必ず目立ってきます。折角、みんなにやさしい使い勝手のトイレとして改修しても、いつの間にか外壁はもちろん、室内壁も床も汚れ、悪臭、便器の汚れも目につきます。定期的なメンテナンス（通常、朝夕の2回）は、されています。よく清掃されているのを見かけます。では何故汚れていく、臭いがする??

そこで今回は、「The Tokyo Toilet」でも、ただひとりの「トイレ診断士」に選ばれた（株）アメニティ山戸氏をお招きし、行政、業者にむけた長崎では初めての、実地調査及び報告&勉強会を実施。目的は、現状の不快とさせている問題点を提起し、より快適なトイレを総合的に提案することです。

1日目現地調査

①桜町公衆便所、②中町公園便所③浜町公衆便所の、長崎市内3カ所。1日目、真夏日にも関わらずテレビ局が駆け付け、山戸さんをフォーカス！ムツとする臭気の中、床に膝をつき隅々までチェックする山戸氏。風速計による換気能力の確認、アンモニア発生状況の確認、照度計、温度湿度計、内視鏡による小便器や排水管の確認等々、このような作業は、普段はなかなか見せてもらえないので、本当に勉強になりました。

長崎市の繁華街近く、立派な龍の銅板彫刻風外観でも知られる浜町公衆便所（夜の酔客の御用達トイレとして有名）は、女性たちは絶対に使いたくないトイレのひとつ。とにかく臭いがひどい・汚れ設備も最悪。なんとアンモニア発生検知管が測定不可能！やっぱり・・・想像通り。



(株)アメニティ山戸社長の淡々として熱い講義！ 熱心な聞き手で会議室は、ギッシリ。



当初、参加者は 10 名程度の予定でしたが、研修当日には、長崎市地域整備課、設備課などトイレに関わる担当者、清掃業者さんなど参加者 40 名余、会議室はギッシリ。実は、私も山戸社長の講義は初めて。前日の現地調査 3 か所の結果をデータ化して詳しく解説。アンモニア発生検知管の映像には、まさに驚きのひとこと。毎日、清掃していますよね、それでもコレ！！ですか？何故汚れる、臭いがひどくなる？！

臭いの原因は「尿の垂れこぼし」つまり尿の飛び跳ねが、アンモニア臭に変化することでおきる。そもそもオシッコが、便器、床、壁、あちこちに飛び散る。尿石となって付着。ソコをきちんと掃除しないと臭いのもとになる。山戸社長の講義内容は、難しいことは何もない、とても分かりやすい。それでいて気がつかないことばかりでした。「トイレ清掃の心得四息」に書かれていたことも、トイレの専門家でなくても家庭の掃除でも同じこと、「今日の汚れは今日のうちに」まさに納得でした。



午後から長崎市中町公園便所にて現地研修

この日は、猛暑でした。しかも中町公園便所は、外観はそれほど老朽化しているようにみえません。内部もタイル張りで明るい。しかし臭いは、かなりひどいです。男子トイレを使っての現地研修は、狭い空間と暑さの中で、暑さをものともしないで座り込み、一生懸命に汚れを清掃落とす、小さな手鏡を使い「最初と最後は見て確認」男性でもかなりハードな作業だったと思います。その中で、いちばん前で、真剣に指導を受けていた若い女性が印象的でした。山戸氏も汗まみれ、何度もいいますが猛暑日と、ハードスケジュールの中、丁寧にご指導頂き、本当に心よりお礼を申し上げます。

ぜひ、「その後の長崎公衆便所」を視察に来ていただければ幸いです。



●(株) アメニティ代表取締役 山戸 伸孝氏からの感想

この度は、研修の機会を頂き、ありがとうございました。終始、長崎市のトイレ熱の高い皆さまとご一緒にできた事がとても嬉しいです。猛暑の中でも、嫌な様子を一切見せずにトイレ清掃の実技を行っている姿は、とても高貴だと感じました。

日常清掃は快適トイレを実現する基盤となります。今後、長崎市のトイレがさらに快適になることを確信しており、観光に来るのが楽しみです。

●参加者からの感想

長崎市中央総合事務所地域整備1課 森尾宣紀

本当にトイレのにおいがなくなるんだ。トイレの清掃研修を行っていただいて2か月が経ち、あの強烈なにおいが、本当に掃除の仕方ewith変わるのか半信半疑で見て回りました。こんなに変わるのかと、びっくりしたのが私の感想です。

長崎市中央総合事務所地域整備2課 管理2係 稲尾茂喜

公園トイレと公衆トイレの現状を目で見せられて衝撃でした。手鏡で見る小便器のふち裏の汚れ、便器周りで測定したアンモニア臭の異常に高い検査値、床の排水口から逆流する空気の流れ、換気扇に吸い込まれない検査煙。清掃とメンテナンスが大切と実感しました。

長崎市まちづくり部まちなか事業推進室 吉野直樹

公共トイレは、維持管理が大きな課題であることは認識していたが、定期清掃は行っており、利用者にいかにきれいに使ってもらうためにどうすればいいか、という思いであった。今回、山戸氏から、トイレの汚れや臭いの発生メカニズムを科学的・論理的に説明していただいたことで、理解が深まり、現地のトイレを診断により数値化、見える化していただいたことで、設計や清掃にまだまだ改善の余地が多くあることを知ることができました。



公衆便所の前で、大変な作業の後、ほっとひと息。



参加者揃って、爽やかな笑顔での記念撮影
(実は、この時、私は全治三か月の骨折で松葉づえ)

私の

推薦トイレ

熊本 好美
法人会員A/日野興業株式会社
災害・仮設トイレ研究会 事務局

私は仮設トイレのメーカーに勤めて10年近くになり、現在は広報を担当しています。日本トイレ協会の皆様にも入社してすぐからずっとお世話になっています。このお話を頂いて、私の「推薦トイレ」は何だろう、自宅のトイレは普通のシンプルなトイレで特筆することもないし、と悩みましたが、せっかくトイレの会社に勤めているのだし最も思い入れのある商品をご紹介しますみよう、と思い立ちました。

私が最も思い入れのある「推薦トイレ」は、「フラワートイレ Bloom」です。入社して1年ほど経ったころ、当時社内を進められていた女性専用仮設トイレの開発プロジェクト「フラワートイレプロジェクト」に参加することとなりました。当時の政権の女性活躍推進をきっかけに仮設トイレを多く使用してくれている建設業界でも現場で働く女性を後押しするための施策が始まり、現場のトイレ環境も注目されはじめました。そんな中当社の「フラワープロジェクト」が始まったのです。

私がプロジェクトに参加した当時、既に商品として「フラワートイレ LXシリーズ」(写真1 LXシリーズ)が登場していましたが、住宅メーカーと共同でLXシリーズよりもハイグレードなトイレの開発が始まっていました。そして、それらの商品名・内装・外装等の検討に携わることになりました。特に苦労したのは、商品名と外装に取り付けるパネルのデザインです。商品名は、「フラワー」に関連のあるワードを全部で100個ほど考え提出してやっと「Bloom」という名前が採用されました。

パネルのデザインはさらに苦労しましたが、夜中に家事をしながらテレビを観ていた時にきれいなモデルさんがさっそうと歩く姿を見てひらめきました。このトイレを使うのは、主に建設現場で働く女性です。彼女たちは建設業界の中では3%ほどのマイノリティですが、やりがいを持ってその職業を選んで働いているに違いありません。若い人はつぼみ(Bloom)ですがこれから花開くだろう。また、かつてつぼみで現在活躍している人が築いてきた実績を花や風にそよぐリボンに見立ててみよう、とイメージを固め、デザイン案を作りやっと採用してもらうことが出来ました。建設現場で働く女性たちが自分らしさを失わず、楽しく、力を十分に発揮できることを願ったデザインです(写真2 フラワートイレ Bloom)。

その後、「LXシリーズ」と「Bloom」の間のグレードのトイレも開発され、その外装に付けるパネルも担当しました(写真3 フラワートイレ WLXシリーズ)。これは「Bloom」のモチーフを一部使用しています。「Bloom」の生産は現在終了し、全国で数台がレンタル向け商品として稼働していますが、「WLXシリーズ」は多くの現場で使っていただいています。私は街中の建設現場などで自社のトイレを見つけると嬉しくてテンションが上がってしまうのですが、これら「フラワートイレシリーズ」の時は特に嬉しくなります。

ここ数年は、男女問わず快適に使える仮設トイレが建設現場で求められており、各メーカーは新商品を多く発表しています。災害時の避難所には普段建設現場で使われている仮設トイレの余剰在庫が運ばれて行きますから、良い仮設トイレが増えることは建設業ではない人にもメリットがあります。これからも多くの人に使ってもらえる商品をしっかりPRしていきたいと考えています。



写真1 LXシリーズ



写真2 フラワートイレ Bloom



写真3 フラワートイレ WLXシリーズ



白倉 正子 メンテナンス研究会 副代表幹事/ 運営委員

公共トイレのメンテナンス（維持管理）を研究している「メンテ研（通称：めんてけん）」の定例研究会を紙面で再現します。定例研究会は誰でも参加できるので、まだ参加したことない人は、ぜひ参加してくださいね（都内で年に数回、行っています。有料です）。

第 195 回 「トイレの利用データを活用した、混雑抑制と付加価値創出の取り組み」

みなさんは最近、「遠方にいながら、トイレの満空情報が見れようになった」というニュースを、見たことはありませんか？トイレにはなるべくスムーズに入りたいものですが、最近は大ブースの快適化による長時間使用が問題になっています。

それを解決すべく、立ち上がったのが（株）バカンさん（日本トイレ協会法人会員）です。この会社はトイレのドアにセンサーを付けておき、ブースが空いているか？使用中か？を電波で飛ばす技術をもっています。これは清掃従事者にとって清掃やトイレトペーパーの補充のタイミングを考えるのに役立っています。この仕組みや効果を伺いました。

1, (株) バカンの取り組み/金子譲治・町田大地

私たちにシステムは、現在（執筆時の 2023 年 10 月には）9400 室のトイレブース設置されており、主な設置場所はオフィスや商業施設・観光地等です。長時間使用の実態ですが、多い場合で 30 分以上いっちゃう方もおられます。このシステムを導入したことで、その 64%の削減でき、利用者からも 92.4%よりポジティブな感想が確認できました。管理者からも大変好評です。

面白い効果としては、トイレの流し忘れや、詰まりが減りました。使用者に「このトイレは管理されている」と言う緊張感を与えたのでしょうか。今後はトイレの汚れの発見にも貢献したいです。



トイレ内に液晶画面があり「混雑してきました」と表示される。混んでいない時には館内案内や広告が表示（提供：バカン社）。



大阪駅のうめきたエリアのトイレトペーパーホルダー。この中に特別なセンサーが内部に組み込まれています。

2, 大阪駅での見学/白倉正子（メンテ研副幹事）

大阪駅の北側に 2023 年 3 月に誕生した「うめきたエリア」（新しい改札他）のトイレが、バカン様のシステムを導入していると噂を聞き、早速（株）JR 西日本様に見学をさせていただきました。私が感動したのは、トイレトペーパーホルダーや洗面台の石鹸水のタンクに、特殊なセンサーが組み込まれており、半分以下になると清掃員に知らせが来ることです。人材不足を解消するだけでなく、清掃員の負担減にもつながりそうだと感じました。

最近、公共トイレでも「多様性」が求められ、性別トイレのあり方や性犯罪との兼ね合いなどが注目されています。そんな中、海外からの訪問者より「日本はなぜ男性トイレを女性が清掃しているのか？」と指摘されました。そこで公共トイレの清掃員の性別に関する意識調査を、メンテ研幹事と個人会員の比地岡貴世氏&坂上逸樹氏（「月刊ビルクリーニング」編集者）で 2022 年より行っています。今回はその中間報告です。



今回は年に 1 回の年次事業報告会があったので、幹事が勢ぞろいでした。新しい監事さんが 4 名も誕生しました。

第 196 回 「公共トイレにおける清掃員の性別調査」中間報告会 他 (2023 年 8 月 25 日 (金) 区民センター [東京都文京区] で開催)

問題点の整理／白倉正子 (メンテ研副代表幹事)

このテーマは、①利用者目線、②外国人視点、③管理者目線 3 点から議論すべきでしょう。①は 2021 年に日本トイレ協会若手の会が実施した調査によると、異性の清掃に対する抵抗感はありましたが、「男性が清掃すべきだ」という意見もありました。②は白倉が 2022 年に知り合いの外国人 (10 か国) に行ったヒヤリングによると、外国では男性のトイレは男性が、女性トイレは女性が清掃している様子が、感じられました。日本も女性蔑視などを文化を乗り越え、世界のスタンダードを意識したいものです。

中間報告／比地岡貴世 (「月刊ビルクリーニング」編集長)

本調査は、多様化の社会において、なかなか変化に対応しきれない清掃業界への問題提起として行っています。本格的な全国調査を行う準備として、都内 8 社のビル清掃会社にヒヤリングを行いました。

結論から言うと、各社はすでに対策を取り組んでおりました。例えばビルの使用者 (会社のビルならその社員) が出社する前に、清掃を終えてしまうとか、清掃中にお客様が入ってきた場合には、サッとトイレの外に出てお待ちする…などです。現在は深刻な人材不足ですし、地域性も影響があるでしょう。外国人労働者も増えました。今後は臨機応変な対応が必要となる気がします。



会場の様子。初めての参加者も大勢いました。オンラインでも参加者がいました。

参加者からの質問とゲストコメンテーターのコメント

「男性作業員の雇用の難しさ」や「男性のトイレ掃除に対する高齢男性の抵抗の大きさ」が課題だと指摘がありました。そんな中 (株) 小田急ビルサービスの高橋英治氏より「採用条件に『休憩時間は一人で過ごせませす』と書いたら応募者が増えましたよ。」と報告され驚きました。



白倉氏が実施した外国人対象のヒヤリングの様子。「なんでこんな調査をするの?」と聞かれて、逆に驚かれました。



新会員紹介は、兵庫県からお越しのフジイ環境整備 (株) さん。浄化槽の会社ですが、インドでトイレを作る支援を始めるとか。

災害・仮設トイレ研究会 事務局

災害・仮設トイレ研究会では、日本トイレ協会の委託を受けて経済産業省こどもデーに、研究会の活動PRとしてぼうさいこくたいに出展を行いましたので報告いたします。

経済産業省こどもデー

【会場】 経済産業省本館

【主催】 経済産業省

【会期】 2023/08/02～08/03 両日 10:00～16:00

※出展希望者が多かったため、2日目 2023/08/03 のみ出展。

【天候】 晴れ

【出展のねらい】 経済産業省との連携強化と、国民への携帯トイレ・簡易トイレの備蓄率向上を図る。

【人員・ノベルティ協力】 株式会社エクセルシア、株式会社サンコー、株式会社総合サービス、株式会社ハマネツ、日野興業株式会社、株式会社ベクセス ※社名五十音順。

【ノベルティ配布数】 114セット。

(内容：研究会制作のトートバッグ・クリアファイル・リーフレット・各社提供の携帯トイレ等をセットにしたもの)

【出展内容】

災害時のトイレについて知ろう～めざせ！災害トイレ博士～

スタンプラリー形式で以下のアトラクションを回することで、災害時のトイレに関する知識を深めてもらう。

- 1 災害時のトイレについて学ぶ（動画をモニターに投影）
- 2 災害時を想定した実演体験（簡易トイレの組立方法・使い方を体験）
- 3 トイレクイズ。
- 4 仮設トイレをデザインしよう。（仮設トイレのパネルデザイン体験。）

【当日の様子】

このイベントは霞ヶ関の府省庁等が連携し夏休み期間に行われ、子供が保護者とともに様々な省庁やブースを訪れ、楽しく学ぶ体験型イベントです。前回は新型コロナウイルス感染拡大防止の為に入場制限を設けての開催でしたが、今年度はフリーの入場制に戻りました。開場時点で入口ゲートには30組以上のご家族が列を作る等、多くの人でにぎわいました。

当ブースには小学校低学年の児童や保護者が中心に訪れ、簡易トイレの組み立ては特に興味を持っていました。災害用トイレ備蓄の重要性についての動画を真剣に見る姿も印象的でした。



第8回防災推進国民大会 ぼうさいこくたい 2023 in 横浜市

【会場】 横浜国立大学

【主催】 内閣府・防災推進協議会（協力：神奈川県、横浜市、横浜国立大学）

【会期】 2023/09/17～09/18

（17日は10：00～18：00、18日（祝）は10：00～15：30 ※屋外展示は～14:30）

【天候】 晴れ

【出展のねらい】

- ・ 出展団体 及び 防災関係者に対する当研究会の周知。
- ・ 普段見る機会の少ない災害用トイレ（仮設・マンホール・簡易・携帯）の実物展示による普及。
- ・ 内閣府との「災害への備え」コラボレーション事業賛同団体としての活動。

【人員・ノベルティ協力】 山本代表幹事、寅 TTD 事務局長、中森事務局長、株式会社エクセルシア、株式会社サンコー、スターライト工業、日本セイフティ、株式会社総合サービス、株式会社ハマネツ、日野興業株式会社

※社名五十音順。

【ノベルティ配布数】 400 セット。

（内容：研究会制作のトートバッグ・クリアファイル・リーフレット・各社提供の携帯トイレ等をセットにしたもの。こどもデーと同様）

【出展内容】

- ・ 2023年に実施した災害トイレの備蓄調査結果発表。
- ・ 経済産業省と日本トイレ協会との携帯トイレ備蓄推進活動 及び ポスター、商品紹介。

【当日の様子】

季節外れの暑さの中、多くの方が会場を訪れました。トイレ備蓄アンケート調査の最新の結果や、様々な災害用トイレの展示に興味を持つ方が多かったようです。当会のブースは屋外だったため、最も暑い時間帯には外を歩く人が少なく、やや物足りなさを感じました。災害トイレの備蓄調査の結果については関心の高い方が多数でしたが、いざ備蓄となると何を何処で購入するのかが解らないと言った意見が多く聞かれました。

来年は熊本県での開催が決まっています。今後はセミナー開催等も視野に入れ、出展を検討していく予定です。

両イベントとも、開催の形態はコロナ禍前に戻った形でした。こどもデーは親子連れ、ぼうさいこくたいは主催の内閣府関係者や防災関係者、地域の住民に災害用トイレ備蓄の重要性と日本トイレ協会の活動をPRすることができる貴重な機会ですので、今後も継続的に関わることが出来ればよいと考えます。また、日本トイレ協会会員の方と交流を持つ機会となりますので、今後お近くで開催される際にはぜひブースを訪れていただきたいと思います。

第9回 トイレ産業展

ジャパン ホーム すまいから、
ビル、ビルディング ショー まちまで
Japan Home & Building Show 2023

災害・仮設トイレ研究会は、
第9回トイレ産業展（11月15～17日）
に出展しています。

日本建築学会大会（近畿）で、セミナー調査分析グループから梗概を発表しました。



2023年9月13日（水）～15日（金）、「歴史がひらく未来」をメインテーマとし、日本建築学会大会（近畿）が京都大学で開催されました。

今回は、3年ぶりに対面での開催となり、2,635編もの梗概が発表されました。

本大会では、（一社）日本トイレ協会セミナー調査分析グループ（山本浩司、高橋未樹子、川内美彦、砂岡豊彦）から、排泄トラブルを抱える方が、安心して外出できる環境を提案することを目的に実施した当事者への実態調査結果等について、「外出時の排泄トラブル対応に関する調査」と題した梗概を発表しました。

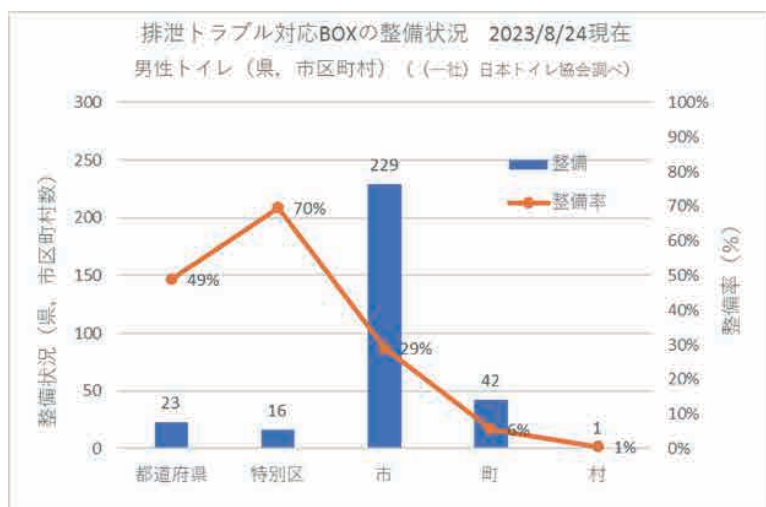
これに対し、会場からは、トイレ内に外出時の排泄補助（大人用紙おむつ、尿漏れパッド、オムツ、清浄綿、カテテル等の尿や便の吸収用具類）の処分を目的にサニタリーボックスを整

備した場合の懸案事項（トイレブースの面積増への対応）等に関して、質疑が交わされました。

また、本大会では、上記の他にも、（一社）日本トイレ協会の法人会員、個人会員から、トイレに関する梗概が発表されました。

セミナー調査分析グループでは、発足以降、外出時の排泄トラブル対応に関する調査分析、対応策として整備されたサニタリーボックスの状況の把握、及び問合せや講演要請への対応等を実施してきましたが、今後とも、外出時の排泄トラブル対応の更なる展開に向けての活動等を継続していきたいと思ひます。

また、これらの活動に加え、すべての利用者にとって、「より快適」「より便利」「より楽しい」「より美しい」トイレ空間の創造に向けて、調査分析を実施していきたいと思ひます。



2023年度より「JTAトイレ賞」と名称を改めました。

2009年度からスタートした「グッドトイレ選奨」は、審査基準を見直し、2023年度より「JTAトイレ賞」と名称を改めました。

「みんながいつでもどこでも気持ちよく使える」トイレ環境をつくり、それを持続できる社会をつくることを目標に、顕著な活動の実践や提案を行っている方を表彰するものです。

トイレの環境づくりの模範になる作品を推奨いたします。

今年度は昨年を上回る31点（日本国内：27点、海外：4点）のご応募を頂きました。

A) 作品部門

No.	タイトル	応募者名
1	FFミラー気配	小宮山哲・山中春男・植木あゆみ (コミー株式会社) "
2	武蔵境駅南口公衆トイレ	武蔵野市・株式会社 国設計
3	上野駅公園口 機能的な人にやさしい駅トイレ	桐谷龍介・権田章（東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロ ジェクト推進建築IIユニット（山手開発））
4	「誰が使うか」ではなく「どう使うか」に フォーカスしたトイレ	佐野優・畑島楓（株式会社日建設計）
5	地域に開かれた「水まもりトイレ」	長谷川健司（管清工業株式会社） 三浦朋訓・Shikwan Yang・小野龍人（T2Pアー キテクツ株式会社）"
6	（第二のトイレ）トイレシャワー室	久保さより
7	六甲最高峰トイレ	株式会社ofa
8	"Restroom&Restroom+ 関電不動産八重 洲ビル ～一人ひとりが働きやすいオフィスにふさ わしいトイレ空間づくり～	植田・高田・杉本（関電不動産開発株式会社） 中藤・藤本・古畑・酒井・吉田・小倉（大成建 設株式会社）"
9	医師からの男子小便器トイレの新提案 ～5度前方傾斜で観戦防止！～	野尻眞 (医療法人 白水会 白川病院 理事長・院長)
10	ニオイや細菌の漏れを防ぐ 自動密閉式おむつボックス ディディーパ ック Plus&Baby	中野洋一（日本カルミック株式会社）
11	台湾澎湖大菓葉公衆トイレ	中華民国交通部観光署澎湖国家風景区管理处 処長-許宗民 Penghu National Scenic Area Headquarters, Tourism Administration, MOTC

B) 著作・研究部門

No.	タイトル	応募者名
1	オールジェンダートイレの認知度と必要性に関する研究	河野竜太（日本文理大学工学部建築学科4年） 渡邊優翔（日本文理大学工学部建築学科3年） 福田健（日本文理大学工学部建築学科 助教）
2	いっしょに考えます、トイレのこと「A-SPEC」	A-SPECプロジェクト（株式会社LIXIL・株式会社AMDlab・合同会社高木秀太事務所）
3	学校施設における中高生の排泄・トイレに対する意識調査	矢口絵理奈（岡山県立大学大学院2年） 原田和典（岡山県立大学） "
4	公衆トイレにおけるオールジェンダートイレの現地調査	丹治希美・柿沼汐璃（日本工業大学4年） 野口祐子（日本工業大学） "
5	The Secret Social Phobia: Shy Bladder Syndrome (Paruresis): Second Edition 知られざる社交不安障害：排尿恐怖症（パルレシス）：第2版	Steven Soifer, Ph.D. American Restroom Association, Program Manager International Paruresis Association, Senior Consultant Human Sciences Institute, Vice-President"
6	Engaged: Concept Designs 統合トイレデザイン指針（名称：エンゲイジド）	Maurizio Mucciola; Iulia Cistelecan (PiM Studio Architects) , Gail Ramster; Jo-Anne Bichard (Royal College of Art Public Toilets Research Unit)

C) 維持・管理・運営部門

No.	タイトル	応募者名
1	トイレの詰まり検知・あふれ防止技術	大和正実・齋藤佑司・町田雅章・野田高弘・今井將椰（株式会社LIXIL トイレ空間事業部）
2	お子さまの感染防止に配慮したメンテナンス（駅トイレ） <ブラックライト／植物洗剤>	桑原佑太・良永賢一郎・小椋樹里杏・石田和久・有泉勝也（株式会社小田急ビルサービス）
3	スマートSAMネジメントシステム（トイレ）の検討	関谷有紗加（中日本高速道路株式会社 東京支社） 鈴木健・馬屋原敦・伊藤佑治・嶋浦早紀・金森愛咲美（中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京株式会社） 泉史朗・今井詩織（中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京株式会社）
4	Evolution of Airport toilet cleaning management ~Smart management makes toilet cleaners work more efficient and passengers experience more satisfied! 空港トイレ清掃管理の進化策 ~スマートな管理をすることでトイレ清掃員の作業効率をアップさせて、利用者の満足度もアップさせる方策	Jo Chun Liao/Wen Cheng Wang(TIAC Ltd.)

D) 社会活動部門

No.	タイトル	応募者名
1	みんなのトイレマッププロジェクト	菅原洋介（一般社団法人イトナブ石巻）
2	“待てる工夫”アイキャッチとなるアート ～保護者のトイレを待ちきれない発達障がいのある子どもたちを手がかりに考える～	寺嶋菜々（TOTO株式会社） 橋口亜希子（橋口亜希子個人事務所） 垣花創（有限会社ステップ・ワン）
3	出前授業 ～トイレの多様性について高校生と共に考える～	中村悠子・石原雄太・澤田康司・田中里恵 （株式会社LIXIL）
4	トイレNIE活動	小山照葉・田北璃空 （日本文理大学付属高校2年 報道委員会）
5	SDGs時代のライフサイクル延長への挑戦 (駅トイレ) <トイレコーティング>	吉丸猛・中山勝・有泉勝也 (株式会社小田急ビルサービス)
6	コード化点字ブロックによるトイレへの誘導及び個室内の音声案内	川口育子（NPO法人日本インクルーシブクリエイターズ協会）
7	千川上水公園トイレ再生プロジェクト	巢鴨庚申塚まちづくりを考える会
8	みんなで創った、みんなにやさしい新庁舎トイレ	林田輝久（長崎市企画財政部大型事業推進室）
9	災害時のトイレ問題について考えよう	スターライト工業株式会社
10	幼稚園での「防災士さんと身体を使ったのしく学ぶ防災教室」開催報告	佐野弘明（ソフトバンク株式会社） 山川純毅（株式会社コケナワ） 森本花織（防災士）"



2021年度 旧グッドトイレ選奨展示の様子

【第Ⅰ部 パネルディスカッション その1】 10:45 ～ 12:30

テーマ：「THE TOKYO TOILET」から何を学んだのか

進行：藤山真美子(お茶の水女子大学准教授)

【第Ⅱ部 パネルディスカッション その2】 13:30 ～ 14:55

テーマ：まちにおける公衆トイレの可能性と課題 - 各地での取り組み事例より -

進行：浅井佐知子(設計事務所ゴンドラ)

【活動発表】 15:05 ～ 16:05

日本トイレ協会会員による (8組)

【JTA トイレ賞 結果発表】 16:05 ～ 16:25

【後援】

経済産業省、国土交通省、国土交通省観光庁、渋谷区、一般財団法人自然公園財団、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人空気調和・衛生工学会、日本インテリア学会、一般社団法人日本福祉のまちづくり学会、公益財団法人日本建築家協会、公益社団法人国際観光施設協会、一般社団法人日本医療福祉建築協会、一般社団法人日本医療福祉設備協会、都市環境デザイン会議、公益社団法人全国ビルメンテナンス協会、一般社団法人全国浄化槽団体連合会、全国管工事業協同組合連合会、一般社団法人日本能率協会、一般社団法人日本レストルーム工業会、NPO 法人給排水設備研究会、NPO 法人地域交流センター、(順不同)

【協賛】

TOTO 株式会社、株式会社 LIXIL、株式会社総合サービス、日本カルミック株式会社、株式会社アメニティ、湘南ステーションビル株式会社、日野興業株式会社、無臭元工業株式会社、コマニー株式会社、ルピナ中部工業株式会社、櫻木神社、テクオス株式会社、(順不同)

【参加申込】

A：会場参加 (事前申込制/定員 150 名/無料)

B：オンライン視聴 (事前申込/人数制限なし/無料)

詳しくは、当協会のホームページをご覧ください。

<https://j-toilet.com/2023/09/19/sympo2023/>



会場参加



オンライン視聴

【案内チラシ】

<https://app.box.com/s/mix4xy989s0ygxqesv0kt7o5ob20ad89>

当プレスリリース URL

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000009.000106356.html>

日本トイレ協会のプレスリリース一覧

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/106356



事務局からの
お知らせ

第9回 トイレ産業展

ジャパン ホーム すまいから、 ビル、 まちまで ビルディング ショー Building Show 2023

会期 2023.11.15 - 17
10:00 - 17:00



第9回トイレ産業展 HP

会場 東京ビッグサイト東展示場

美しい日本のトイレを誇りたい。

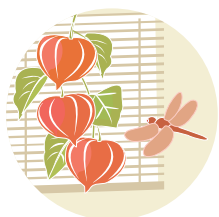
 一般社団法人 日本トイレ協会



このパネルが目印です！

日本トイレ協会は、トイレ産業展に出展します。
みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

新入会員のご紹介



倉富二 達広さん 個人会員

Q1 トイレ協会に入会したいと思われたきっかけ、理由はなんですか？

トイレ環境に関わる仕事をしており、学びのため。

Q2 どんなお仕事をされていますか？

トイレの消臭・抗菌の日用品メーカーのマーケティング。

Q3 会員として今後関わっていききたいことなどご自由にどうぞ。

日本のトイレ環境向上に幅広く貢献出来れば。

Q4 あなたにとってトイレとは？

健康管理・一息リラックス

映画『PERFECT DAYS』 2023年12月22日（金）全国公開

東京都渋谷区の快適な公共トイレの改修を進めるプロジェクト「THE TOKYO TOILET (TTT)」から派生した映画作品が公開されます。監督は世界的な名匠ヴィム・ヴェンダースさん。10月に開催された第36回東京国際映画祭ではオープニング作品として上映され、主演の役所広司さんはカンヌ国際映画祭で主演男優賞を受賞するなど国内外で高い評価を受けています。渋谷区内17カ所の公共トイレを世界的な建築家やクリエイターが改修する「THE TOKYO TOILET プロジェクト」に賛同したヴェンダースさんが東京、渋谷の街、そして同プロジェクトで改修された公共トイレを舞台に描いた作品です。

「THE TOKYO TOILET プロジェクト」は、みなさんご存知の通り、小林純子会長が「笹塚緑道公衆トイレ」（渋谷区笹塚1-29）のデザインを担当され、3月10日より一般利用が開始されています。また、山戸伸孝運営委員が代表取締役社長を務める株式会社アメニティは当プロジェクトのトイレ診断を担当されており、当協会とも関わりの深いプロジェクトです。メンテナンス研究会が、メンテナンスの視点でTTTを視察したレポートがトイレ協会ニュース21-4号（※）に掲載されていますので、そちらの記事も是非お読みください。日本トイレ協会会員の視点で映画鑑賞はいかがでしょう。

作品紹介

監督：「パリ、テキサス」「ベルリン・天使の詩」などで知られる ドイツの名匠ヴィム・ヴェンダース
出演：役所広司、田中泯、柄本時生、石川さゆり、三浦友和ほか

東京・渋谷でトイレの清掃員として働く平山（役所広司）は、変化に乏しいながらも充実した日々を送っていた。同じような日々を繰り返すだけのように見えるものの、彼にとっては毎日が新鮮で小さな喜びに満ちている。古本の文庫を読むことと、フィルムカメラで木々を撮影するのが趣味の平山は、いつも小さなカメラを持ち歩いていた。

映画『PERFECT DAYS』公式サイト <https://perfectdays-movie.jp/#>
2023年12月22日（金）TOHO シネマズ シャンテほか全国ロードショー

※日本トイレニュース21-4号
<https://do-amenity.app.box.com/s/fdtpilmorvjjoxyvpgia2xwrwawjtw5>

「進化するトイレ」シリーズ 全3巻発売中！

当協会編集によるトイレの本「進化するトイレ」全3巻が柏書房より刊行されました。

- ・災害とトイレ 緊急事態に備えた対応
- ・快適なトイレ 便利・清潔・安心して滞在できる空間
- ・SDGsとトイレ 地球にやさしく、誰もが使えるために

協会員のみなさまには会員割引販売があります。
詳細はHPをご覧ください。



各定価 3,300円



広報部提案&推薦！出ました試作ピンバッジ！スッキリ爽やかなデザイン、よく見ると便器やピクトグラムサインが隠れています。QRコードとして公式サイトへ飛べます！投稿して下さった方々へのお礼としてお送りします。

サイズ：19mm×19mm

編集後記

映画『PERFECT DAYS』の試写会にご招待いただき、参加してきました。本当に素晴らしい映画でした。役所広司さんやヴィム・ヴェンダース監督の映画製作エピソードを伺い、まさに奇跡の連続で完成した作品であることを感じました。心に何かが灯るような作品です。皆さん、12月22日の公開を楽しみにしてください。(山戸伸孝)

「防災の日」の由来は、「関東大震災」(1923年9月1日)であることをご存じでしたか？日本赤十字社が実施した調査によると、その認知度は「50.8%」とのこと。一方で、当協会(災害・仮設トイレ研究会)が実施した調査(本年8月)では、「災害用トイレ」の備蓄率は「22.2%」と非常に低率です。

(<https://j-toilet.com/2023/09/02/saigai/>)「関東大震災」から本年で100年となります。この節目の年に皆さんの「防災力」を是非高めて頂ければと思います。(新妻普宣)

11月に開催されるトイレ産業展では第1回から出展している弊社ですが、初めての試みでトイレ(商品)を展示しないことをコンセプトにし、スタッフに任せています。どんな事になるのかとても楽しみにしています。トイレって無限に課題があって面白い。(谷本 亘)

毎年、トイレシンポジウムの前は、私が主催する「女性が主役のまち歩き(11月3日)」なので、激動の日々。今年は36年目のご褒美！「長崎県地域文化章」を頂きました。なので胸張って、ほっとして堂々と東京へ、そしてリレートークの勧誘する予定笑(竹中 晴美)

11月10日はトイレの日でした。会員の皆様は、トイレに思いを馳せたのではないかと思います。そこから始まったトイレシンポジウムも第39回開催がいよいよです。充実した内容となりましたので、今からでもぜひ、申込をしていただければと思っています。お待ちしております。(浅井佐知子)

あっという間に11月。近々、家族が増える予定。かわいいかわいい超大型犬のバーニーズの子犬がやってくるのですが、犬業界でもトイレ問題はかなりざわついています。人間でも犬でも「トイレマナー」とは・・・永遠の議題です。(高橋佳乃)

長かった夏が終わり、ようやく秋めいてきました。夏の疲れが癒えないまま、また感染症が心配な季節の始まりでもあります。今月は東京ビッグサイトで全国トイレシンポジウムとトイレ産業展があります。大勢の方がご参加の会場となります。みなさま、どうぞ感染予防をしっかりとご参加ください。(小澤美紀)